

## 第15回栃事研セミナー レポート

8月8日（火）、栃木県学校生活協同組合会館にて、第15回栃事研セミナーを開催しました。台風の接近が予想されていましたが、無事に開催することができました。今回のセミナーでは、「ケース・スタディの体験と研修プログラム活用の実際」として、講師に足利市立北郷小学校 事務長 岡崎 信二 氏を迎え、56名が参加しました。平成28年12月に全会員に配布された「とちぎの研修プログラム」を用い、ケース・スタディを体験して研修プログラムの活用方法及び具体的な研修の進め方の手法について学びました。



午前中の講義では、本日の研修の目標を、「気づき・考えよう・伝えよう・話を聴こう・アイデアを出そう・企画提案しよう」として、研修プログラムの狙いと効果や事務職員としての力量形成の在り方についての講話をいただきました。実際の学校運営の中で起こりそうなケースを想定し、実践力や技法・思考を引き出す研修を行うこと（ケース・スタディ）で、研修を行う側と受ける側、双方の力量の形成が図られることなどのお話をしてくださいました。



次に行われたグループワークでは、グループ内でコーディネーターを決め自己紹介することから始まりました。その後、コーディネーターを中心に、事前課題として提示されたケース『学校予算の効果的な執行に向けて』のそこから読み取れる、課題や問題点の洗い出しを行いました。受講者は、ケースに登場する事務職員の立場やその学校の様子を考えながら問題点を挙げていました。さらに、出てきた問題点を分類、集約をし「問題点洗い出しシート」にまとめました。その後、深よみ（「なぜ」「どうして」）や想像（予測・発想）を繰り返すことで、本質や真因にたどり着けることや、ロールプレイングを行うことで、さらなる気付きを目指すことができるなどのお話をいただき午前の部が終了しました。

午後の講義では、事前課題のケースを使い各グループで実際にロールプレイングを体験しました。体験に先立ち、栃事研執行部が、校長、教頭、教務主任、教科主任（算数・音楽）、事務職員の役になりきり、ロールプレイングを模擬的に実演しました。その白

熱した演技に触発されたのか、その後に行われた各班のロールプレイングでは、事務職員役として専門性を生かして意見を述べたり、事務職員以外の役としてそれぞれの立場を考えて意見を述べたりなど、それぞれが役になりきり、盛り上がりながらも、真剣に取り組んでいま



した。ロールプレイングは配役を変えて2回行いました。配役が変わることにより、同じテーマでも1回目と2回目で違った意見を取り出すことができていました。普段経験している事務職員以外の役になりきることで、様々な視点で考えることができ、事務職員

員の立場からは想像しなかった考えや、問題点など、新たな気づきがあったようでした。その後、グループごとにケースの事例に対し「学校全体で学校財務に取り組もう！」を中心にマンダラシートを使って、アイデアを出し合いました。そして、出てきた意見をさらにマンダラシートを使いより具体的な解決策へとまとめていきました。さらに、そこから導かれた解決策を一つ選び、5W1Hシートにまとめました。その後の発表では、各グループとも様々な立場や視点から考えた課題解決策がでてきました。そのグループにいた受講者はもちろんのこと、発表を聞いていた他のグループの受講者にとってもいろいろな気づきがあったようです。



研修の最後には、研修で学んだことを少しでもいいので生かしてほしい（研修 - 実践 - 振り返りのサイクル）、できないことよりできることを語り合う（できる可能性があるとところを広げていく）、真因を探ることや本質を見ること（掘り下げて考える）、お互いに考えていることを理解する、といったお話がありました。

今回のセミナーはグループワークやロールプレイングなど全員が発言や体験できる機会が多くあったため、受講者は楽しみながら研修を受けることができたようです。また、普段とは違った立場で物事を考えたり、聞いたりすることで新たな刺激を受けることができたようでした。本日の研修をきっかけに、「とちぎの研修プログラム」を学校や共同実施、市町事務研などで活用していただき、研修を行う側と受ける側、双方の力量形成がなされることを期待しております。